

2011. 1. 9(日) 福島民報

エコチル調査の基本を
学ぶ参加者



エコチル調査の基本を
学ぶ参加者

**子どもの健康と環境調査
医療機関担当者ら研修** 南相馬
環境省の子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の研修会は八日、対象地域に選定された南相馬市のロイヤルホテル丸屋で開かれた。一月三十一日からの募集開始を前にした研修で、産婦人科がある病院・医院、市町村担当者四十七人が出席した。

安村誠司ユニットセンター長（公衆衛生学教授）があいさつした。参加者は調査の概要、疫学研究の基本、倫理と研究対象者の保護などの研修を受けて確認試験に臨んだ。調査は胎児期から小児期にかけて、化学物質が健康にどのような影響を与えているかを解明する国家プロジェクト。全国で十万人を十三歳まで追跡調査する。費用総額は約九百億円。調査は全国十五

のユニットセンターが担う。県内は福島医大に福島ユニットセンターが設置された。県内の対象地域は福島市、南相馬市、双葉郡八町村。八月一日以降に出産予定の妊婦を募集し、三年間で六千八百四十人を選ぶ。調査内容は妊婦と父親の血液採取、出生児の健康確認、臍帯血（さいたいけつ）、母乳の採取の他、半年ごとの質問票調査、数年ごとの面接調査、環境試料の採取などを行う。

南相馬市、双葉郡の協力医療機関は次の通り。レディースクリニック

はらまち、西調マタニティクリニック、原町中央産婦人科医院、青空会大町病院、南相馬市立総合病院、今村クリニック、双葉厚生病院

◇ ◇
九日午前九時からは福島市のコラッセふくしまで、協力十一医療機関を対象に開かれる。

2011. 1. 10(月) 福島民友



エコチル調査の概要を学んだ研修会

子を対象に環境省が行う「エコチル調査」で、県内での調査を行う福島ユニットセンター（センター長・安村誠司、福島医大医学部公衆衛生学講座教授）は九日、福島市で調査を行う医療機関や市町村の担当職員を集めた研修会を開き、調査の概要などを確認した。同調査は、同市と南相馬市、双葉郡の親子6840組を対象に実施する予定で、今月下旬から医療機関などを通じて調査対象を選定する。研修会では、安村センター長らが、調査概要などを説明した。

ル査 工調 来月から全県に拡大 環境省 県民の不安踏まえ 妊婦と、出生後の子 どもの健康状態を追跡 調査する「子どもの健 康と環境に関する全国 調査」(エコチル調査) で、環境省は十月一日 から本県の調査対象地 域を従来の県北、相双 両地域から県内全域に 拡大する。四日、同省 が発表した。放射線の	子どもの生後から十三歳 までを追跡調査する。 本県では福島医大が 担当病院となり、県北 相双の十四市町村で始 まった。しかし、東京 電力福島第一原発事故 を受けて放射線による 健康影響への不安が広 がったため、調査対象 を全域に拡大した。	エコチル調査は、環 境中の化学物質などが 子どもの病気や成長に 与える影響を調べるた め、平成二十三年一月 にスタートした。妊婦 に登録してもらい、子 調査の推計を追加す
る。県民健康管理調査 の基本調査結果がある 人はそのデータを活用 し、データがない場合、 居住地や事故当時の行 動から推計する。子ど もの低線量被ばくの調 査は具体的な実施方法 が課題で、今後検討す る。	五十市町村の五十 二の協力医療機関を通 じて妊婦の登録を呼び 掛ける。調査目標人数 は一万五千九百人。	調査項目は半年ごと の質問票などに加え、 妊婦の外部被ばく線量 調査の推計を追加す

エコチル調査を拡大

環境省 来月から県内全市町村に

環境省は4日、化学物質
の影響を胎児期から13歳に
なるまで追跡して調べる
「エコチル調査」で、本県
で東京電力福島第一原発事
故の放射線の健康影響に関
する不安が広がっているこ
とを踏まえ、10月から本県
の対象を全59市町村に拡大
すると発表した。県民健康
管理調査とも連携し、大気
汚染などの環境要因に加え
、放射線の影響も調査項
目に加える。

の参加を目指し始まった。
県内では、福島市や伊達市
など県北地方と、南相馬市、
双葉郡など相双地域の計14
市町村が対象とされ、先月
25日現在で妊婦2320人
が登録している。来月から
は全県に対象地域を広げ、

機関を受診する妊婦から血
液や尿、さい帯血などを採
取し、化学物質の分析を行
う。また、生まれた子ども
についても病気や発達状況
を13年間にわたって調査す
る。

本県の場合は、参加者の
了承を得た上で、県民健康
管理調査の外部被ばく線量
推計値のデータを調査に活
用する方針。

調査拡大に関する問い合
わせは、専用ダイヤル(電
話0120・327・73
5)へ。

エコチル調査は、201
1(平成23)年1月から3
年間で、全国10万組の親子

福島の子健康調査

対象を全県に拡大

東京電力福島第一原発事故で被曝した恐れがある母親から生まれた子どもへの影響を調べるため、環境省は、福島県内の一部で行っていた母子の健康調査を10月から全県に広げる。対象人数も6900組から1万

5900組に拡大。子どもが生まれた直後から13歳になるまで、病気や発育状況などを継続的に調べる。環境省が進める「子どもの健康と環境に関する全国調査」の一環。福島県内では事故前の昨年1月から、

福島市など14市町村で妊娠中の女性を対象に参加者を募ってきた。同省は、県民に不安が広がっていることから、調査地域を県内の全市町村に広げることにした。

福島県内の52医療機関に協力してもらうほか、郡山市内に専用事務所も設置。県民向けの専用ダイヤル(0120・327・735)で調査の相談に乗る。

全市町村 1万5900人に拡大

ダイオキシンなどの化学物質が子どもの健康に与える影響を長期間追跡する疫学調査(エコチル調査)について、環境省は4日、10月以降の対象者を県内全59市町村の1万5900人へと拡大すると発表した。

エコチル調査は、全国15地区(19道府県)の協力医療機関を受診している妊婦から約10万人を対象者とし、妊娠初期から出産した子が13歳になるまでの間、母子の血液や毛髪などを継続的に分析。元々は増加しているアレルギーやぜんそくなどの疾患と化学物質との関連を調べる目的で、震災前の昨年1月から始まった。しかし原発事故をきっかけに子育てへの不安が高まっていることから、調査項目に原発事故による放射線の影響も加えた。

開始当初、県内の対象地域は福島市周辺と相双地区

妊娠初期から13歳までのエコチル調査

母子の血液、毛髪など分析

原発事故で放射線影響もチェックへ

の14市町村、19医療機関で、対象者は母子6900組を目標としていた。しかし原発事故後、対象外の地域からも不安の声が上がり、調査を拡大することが決まった。対象者の拡大により、13年度までの3年間で、県内52の協力医療機関を受診した妊婦1万5900人を目標に調査を行うことになった。

調査に必要な被ばく量の推計は、県が全県民を対象にしている県民健康調査で調べた行動記録を利用する。

記者会見したエコチル調査福島ユニットセンター長の橋本浩一特任教授は「万一、何かあった時、すぐに医療機関につなげるように、調査を通して見守りができることが大切」と、事業の意義を説明した。問い合わせは同センター0120・327・735。

【泉谷由梨子】

**「エコチル調査」
地域拡大に理解
郡山で運営協
「子どもの健康と環
境に関する全国調査」
(エコチル調査)の地
域運営協議会は二十五
日、郡山市の郡山ビュ
ーホテルアネックスで
開かれた。**



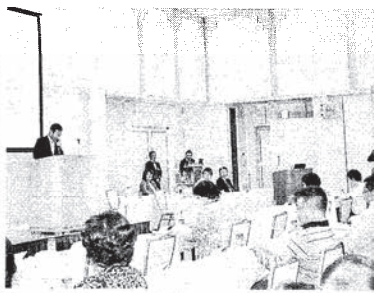
放射線の健康影響に
関する県民の不安拡大

を踏まえ、環境省が調査地域を県北・相双地域から県内全域に拡大することに伴う開催。県や福島医大、県中・県南地域の医療機関や行政機関の関係者ら約八十人が出席した。

調査を担当する福島医大の福島ユニットセンターの橋本浩一センター長と横光克彦環境副大臣があいさつし、委員約九十人を委嘱した。センター職員が調査の概要や県全域拡大の趣旨などを説明した。

いわきと会津の両地区は今年度中に開催する予定。県北・相双地区は今年度中に開催するか検討している。

**エコチル調査の
対象拡大を説明
郡山で県中・県南担当者
子どもたちへの化学物質
の影響を追跡調査する「エ
コチル調査」で、エコチル
調査福島ユニットセンター
は、県内の対象が原発事故
の放射線不安を踏まえて10
月から全59市町村に拡大さ
れることを受け25日、郡山
市で県中、県南地方の市町**



郡山市で開かれた協議会で、
あいさつする横光環境副大臣

同センター長をはじめ、県中・県南地方の市町村のうち16市町村から約80人が出席した。

各担当者が調査概要や県全域に拡大することの趣旨、進捗状況などを報告。拡大に伴い産婦人科の協力機関がこれまでの18機関から50機関になる方向で調整を進めていることなどを示した。出席者からは「放射線の影響をどう分析するか」「遺伝子解析をどうするか」などの意見が出された。

エコチル調査は、子どもが母親の胎内にいるときから13歳になるまで定期的に健康調査を行い、環境が子どもの成長に与える影響などを調べる。県内では福島市と南相馬市、双葉郡の計10市町村が指定され、2010(平成22)年度から始まった。



進ちよく状況を説明
エコチル調査いわき運営協
「子どもの健康と環
境に関する全国調査
(エコチル調査)のい
わき地域運営協議会
は二十六日、いわき市の
グランパークホテルエ
クセルいわきで開かれ
た。

放射線の健康影響に
関する県民の不安拡大
を踏まえ、環境省が調
査地域を県北・相双地
域から県内全域に拡大
することに伴う開催。
県や福島医大、市内の
医療機関や行政の関係
者ら約三十人が出席し
た。

調査を担当する福島
医大の福島ユニットセ
ンターの橋本浩一セン
ター長があいさつし、
運営協議会の委員十六
人を委嘱した。橋本セ
ンター長が代表者に委
嘱状を手渡した。引き

続き、センター職員が
調査の概要や調査の進
ちよく状況などを説明
した。

センターによると、
十月一日から十一月二
十二日現在までの拡大
地域での母親の調査参
加者数は四百七十九人
となっている。



エコチル調査概要報告

いわき運営協 子どもの健康管理へ

子どもの健康と環境を追
跡調査する「エコチル調査」
のいわき地域運営協議会
は、
委嘱状を受ける村岡さん⑤

26日、いわき市平のグラン
パークホテルエクセルいわ
きで開かれた。
県北や相双地区を中心に
行っていたエコチル調査

は、放射線の健康影響に対
する不安などから、今年10
月より調査地域を全県に拡
大。調査を円滑に行うため、
医療機関など関係団体でつ
くる同協議会を開催するこ
ととなった。約50人が出席
した。

橋本浩一福島ユニットセ
ンター長があいさつし、委

員16人の代表の村岡栄一さ
ん(村岡産婦人科医院長)
に委嘱状を手渡した。

議事では、調査の概要や
現在までの進捗状況など
を報告した。

子育て世代が交流
読み聞かせ法学ぶ

エコチル調査参加者

福島医大のエコチル調査
福島ユニットセンターは10
日、福島市の福島テルサで
「よみきかせ&エコチルコ
ンサート」を開き、多くの
親子連れでにぎわった。

子どもの環境と健康につ
いて調査する「エコチル調
査」の参加者同士が交流を
深め、絵本の読み聞かせ方
法などを学び、子育てに役
立ててほしいと企画。同調
査参加者やその家族など約
200人が参加した。

第一部では東北福祉大講
師の松本祥子さんが、絵本

絵本の選び方や読み方を
伝授した松本さん



の選び方や読み方を伝授。
また、ポイントを説明しな
がら「はらぺこあおむし」
などを読み聞かせた。第2
部ではフルート奏者の小野
宏子さんとピアノ奏者の塩
入加奈子さんが「となりの
トトロ」や「ミッキーマウ
ス・マーチ」などを披露し、
来場者の心を和ませた。

絵本の選び方
演奏楽しむ

福島

「よみきかせ&エコ
チルコンサート」は十
日、福島市の福島テル
サで開かれ、参加者が
子育てに適した絵本の
選び方や音楽を楽しん
だ。

福島医大、エコチル
調査福島ユニットセン
ターの主催。子どもの
健康と環境を調査する
エコチル調査の対象家



優しいメロディーを奏
でたコンサート

族ら約百八十人が来場
した。

第二部のコンサート
ではフルート奏者小野
宏子さんとピアノ奏者
塩入加奈子さんが「愛
の挨拶(あいさつ)」
や「となりのトトロ」
などを演奏した。来場
者は二人の奏でる優し
いメロディーに聴き入
っていた。

生演奏親子ら魅了

エコチルコンサート

子どもの健康や環境を調査する、福島医大のエコチル調査福島ユニットセンターは3日、福島市の県文化センターでエコチルコンサートを開き、親子らがバイオリンとピアノの生演奏を楽しんだ。

エコチル調査に参加している親子ら約290人が来場。コンサートは2部構成

で開かれ、1部では子育てをテーマに講演を行った。

2部では県内外で音楽活動をしている河野美紀子さんがバイオリン、伊藤哲さ



来場者が美しい演奏を楽しんだコンサート

さんがピアノを演奏。ドボルザーク作曲の「ユモレスク」などのクラシックやディズニーソングを披露した。来場者は曲に合わせて体を動かしながら、美しい音色に聞き入った。

親子、夫婦、妊婦など幅広い世代の方々が 仙台フィルの心地良い音色に癒やされました



仙台フィル弦楽四重奏の皆さん。楽器紹介や子育て話など楽しいトークも好評で、来場者から感謝の声が多く聞かれました

主催／エコチル調査福島ユニットセンター
共催／福島リビング新聞社

10月28日、本宮市のしらさわカルチャーセンターで開催された「エコチル・コンサート」。プロのオーケストラ「仙台フィルハーモニー管弦楽団」の演奏を楽しみに多くの来場者がありました。

第一部は全県調査が始まった「エコチル調査」について、同調査福島ユニットセンター長・橋本浩一さんが講演。子どもの健康に起きていることなどのお話に、皆さん真

剣に聴き入っていました。

第二部、いよいよ仙台フィル弦楽四重奏のコンサート。胎教にいいといわれているモーツァルトや「アヴェ・マリア」「タイスの瞑想曲」などアンコールを含め9曲を演奏。親子、夫婦、妊婦、友達同士など幅広い世代の誰もが心地良い音色に身を委ね、優しく癒やされる時間を過ごしました。「生演奏が心に響き、耳に残っています」「娘とおなかの赤ちゃんとともにリラックスできた」「心が豊かになった」「また聴きたい」と大好評でした。



「エコチル調査」を分かりやすく知ることができました

フライデーEYE

福島医大のエコチル調査
福島ユニットセンター
特任教授

橋本 浩一

環境省の「子どもの健康と環境に関する全国調査」(エコチル調査)に協力してもらう妊婦の募集が一月三十一日に始まりました。まず調査概要からお聞きします。

◇全国十五地区の十万人の母親の妊娠段階から、生まれた子どもが十三歳になるまで定期的に健康状態を調べます。近年、科学や技術が急速に発達し、さまざまな化学物質が身の回りに増えてきました。このため、身の回りの化学物質や生活習慣、遺伝的背景が子どもの成長や病気にどんな影響を与えるかを確認します。県内では福島、南相馬両市と双葉郡内の八町村に住み、出産予定が八月一日以降の妊婦さん六千九百人が対象になりました。三年間で段階的に調

「エコチル調査」協力妊婦の募集開始



はしもと・こういち
郡山市出身。安積高、福島医大医学部卒。同大大学院医学研究科修了。同大医学部小児科学講座准教授も務める。センターではリスク管理責任者を担う。44歳。

査に入ります。

―調査地区を決める公募には全国二十六地区が手を挙げました。本県が選ばれた理由は、

◇県民の子育てに対する意識

環境の健康影響 解明へ

が認められたのでは。県内の高い妊婦健診や乳児健診の受診率が物語っています。県内で医療機関や行政などの協力体制が整っていることや、福島医大が調査の特任教授ポストをつくるなど、積極的な姿勢も評価されたのだと思います。

―どんな調査体制を取っていますか。

◇福島医大に事務局の福島ユニットセンターを設けました。

対象市町村にある産婦人科の医療機関十八カ所の協力を受け、自治体や医師会、医療・看護団

体などで連携します。妊婦さん

に説明して同意を得るのは、研修会を受講して「リサーチコーディネーター」に認定された医師、看護師、助産師らで、県内の認定者は、すでに百人を超えました。

―調査の出足はどうですか。

◇九日現在で十四人から調査への同意を得ました。第一号は

以前から調査を希望されていた福島市内の方で、募集初日から検体を提供していただきました。スタートとしては全国的に見ても順調な方だとは思いますが、本当は一日平均七人から同意をもらわなければ間に合わない計算です。早く調査を軌道に乗せなければなりません。

―調査を進める上で大切なことは何ですか。

◇調査に協力してもらう妊婦さんや家族の理解が欠かせませ

ん。県内の実情に応じた方法で、

将来の子どもたちのため、普段漠然と不安に感じている環境の健康への影響を明らかにしたい。県内で多くの検体を得られるきっかけのチャンスですので、福島医大は感染症やアレルギー、精神発達などに関する追加調査も検討しています。

聞き手・佐久間 裕

Spot Light

話題のあの人



北海道大学工学部卒業。現・県立医科大学特命教授。エコチル調査についての問い合わせは、専用フリーダイヤル＝☎0120(327)735へ。

未来の子どもたちのために、 郡山で“エコチル”が始まります

エコチル調査 福島ユニットセンター副センター長
郡山事務所所長、特命教授

佐藤哲志さん

9月3日、郡山市朝日に「エコチル調査福島ユニットセンター郡山事務所」がオープン。その所長に就任されたのが佐藤哲志さんです。今話題の“エコチル”について話をうかがってきました。

「私たちの生活は便利になってきましたが、それとともに化学物質も増加しました。それら化学物質などの環境要因が、子どもたちの健康に与える影響を調べるのが『エコチル調査』。これは全国10万組の親子の皆さんに協力してもらう、国家的なプロジェクトです」。

「私たちの生活は便利に
なってきましたが、それと
ともに化学物質も増加しま
した。それら化学物質など
の環境要因が、子どもたち
の健康に与える影響を調べ
るのが『エコチル調査』。こ
れは全国10万組の親子の皆
さんに協力してもらう、国
家的なプロジェクトで
す」。

対象となる10万組の中には、福島県の親子も含まれます。

「東北では、福島県と宮城県が選ばれました。昨年の1月からスタートし、10月からは郡山を含めた全県で参加者を募集します。この調査では、皆さんの大事なお子さんたちを13年間にわたって見守っていきま

す」。

その結果は、未来の子どもたちのために生かされる予定です。「問題を起こす

10月には「マタニティ・コンサート」を実施。エコチル調査郡山事務所は、郡山での子育てを応援し、ともに成長する事業を目指していきます」。